



リサーチ

2023年8月17日-21日

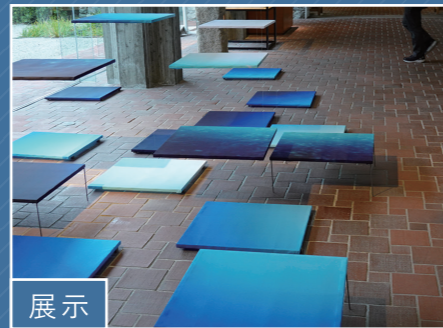
アーティストと中高生らがチームを組み、調査・研究・立案。香川大の船を使い、瀬戸内海を守るための「藻場」のリサーチも行いました。



制作

2023年9-10月

第一線で活躍するアーティストの制作現場を間近で体感しながら、一緒に作品制作。



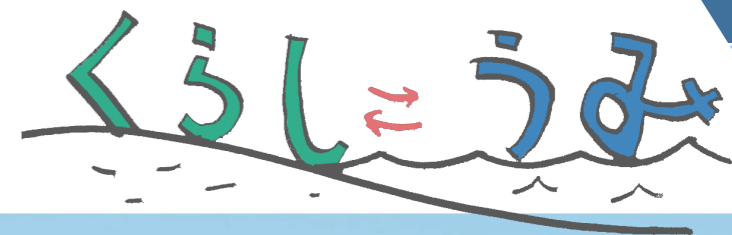
展示

2023年10月27日-11月26日

集大成となる「くらしうみ」展は開館50周年を迎えた「瀬戸内海歴史民俗資料館」で開催しました。

2023年度香川県・東京藝術大学連携事業

香川県・東京藝術大学 瀬戸内海分校プロジェクト



出演アーティストは、前回の「さとうみ」展も出展した東京藝術大学出身アーティスト3名に新たに香川出身アーティストが加わった4名です。展示会の運営は、日比野学長をはじめ東京藝術大学教員と香川大の教員のほか、香川大生も参加しました。



いとう いずみ
伊東 五津美

現代美術
東京藝術大学美術学部絵画科油画
教育研究助手



さかた ゆかり
坂田 ゆかり

演劇
東京藝術大学
社会連携センター 特任助教



ほし たかし
銚井 喬

インスタレーション・映像
東京藝術大学美術学部デザイン科
テクニカルインストラクター



みやま しんたろう
宮脇 慎太郎

写真・インスタレーション
香川県出身アーティスト

瀬戸内海分校
プロジェクトの
HPはこちら



「瀬戸内海分校プロジェクトとは」

中高生とアーティストがチームを組み刺激し合う、瀬戸内海に面したアート県・香川ならではのユニークな取組。香川大は共催というかたちでサポート役を担っています。「海は人を愛する」をメインテーマに、フィールドワークから作品制作、展示会の準備・開催に至るまでの一連の流れを実践的に学ぶプログラムです。2年目となる2023年は「くらしうみ」をサブテーマに展示会を創り上げました。

アートを社会に実装していく 新たな潮流

今回で2回目となる「香川県・東京藝術大学瀬戸内海分校プロジェクト」。きっかけは東京藝術大学と香川県の連携事業に2020年から香川大が協力したことでした。それまではアーティストが来県し、作品を創って展示会をするというだけの内容だったので、せっかくアーティストが香川をリサーチするのであれば、人材育成もかねたプロジェクトを一緒に立ち上げてみてはどうですかと提案しました。

2022年の1回目は香川県の文化を支えている瀬戸内海「さとうみ」をサブテーマに、海に対して人や文化がどのように関わっているのかを県内の中高生とリサーチしました。「分校」という名前は「二十四の瞳」のように生徒とアーティストがお互いに学ぶ場をイメージしたもの。リサーチから、作品制作、展示会開催に至る流れを実践的に学ぶプログラムです。

2回目となる2023年は「くらしうみ」をサブテーマに、瀬戸内海と暮らす人々の生活について学びながら、中高生がアーティストとともに歩みを進めてきました。またワークショップでは一般の方達にも広く参加していただきました。アーティスト別に中高生た

ちとチームを作り、香川大生の担当者がサポートし、プロセスを進行しました。今回は、ワークショップの数を増やすなどしてさらに参加人数を増やしたいと考えています。

アーティストが持つ「見えないモノを見る力」で社会全体がまだ気付いていない価値を見いだす。つまり、アートが手法として活用されるようになることが今後の目標です。2024年夏には庵治半島の北端に「芸術未来研究場」が完成予定です。この施設が作品を見せるという働きに加え、「機能としてのアート」をどう社会実装するかの大きな実験場になればいいなと。1階にギャラリー、2階にワークショップ、3階にコワーキングスペースなどを備えます。瀬戸内海の海洋研究者ともリンクするなど、総合大学の強みを生かし、学部を越えた取組もしていけたらと思っています。



瀬戸内海分校 教頭

創造工学部 講師
しばた ゆうき
柴田 悠基

広島県福山市出身。2003年九州芸術工科大学卒業。東京藝術大学美術学部の助教を経て、2017年から現職。専門は現代美術、メディアアート。